

## 入試雑感

### 文学的文章

本年度の入試問題について、たくさんの問題に直接触れている編集委員が率直な感想を述べる。  
(太字の出典は、本問題集に採録)

本年度もというべきか。時節柄か、戦争をテーマにした出題が目についた。昨年度の**22**金沢大の加藤周一『ある晴れた日に』は、空襲に悩まされる戦時下の東京とは対照的な平和な高原の村を舞台に、人との関わりに混乱していく主人公の気持ちを読解させる出題であった。**23**大阪大文学部の吉村昭『彩られた日々』も、戦時下の工場で働かされる中学五年生が主人公である。少年であるはずの十七歳が戦争のため、大人の領域に引き込まれていく。タイトルと対照的なリアルで凄惨な描写を冷静に読み取らなければならない。**24**京都大の小津夜景『ロコスと善貝』も、出題された文章のタイトルは「戦争と平和がもたらすもの」であり、戦争という過酷な現実に対して言葉や文字は何ができるかを述べている。筆者の小津夜景は俳句や漢詩の「翻訳」で注目を集めたが、ブログの「小津夜景日記」が面白い。**19**東京大の佐多稲子『狭い庭』は、戦後しばらくして落ちて着いてきたころの庶民の暮らしがうや仕事への思いを描いた小説で、例年の随筆に比べ素直すぎるような出題であった。他大学でも佐多稲子の出題が見られ、昨年出版された佐久間文子の『美しい人 佐多稲子の昭和』という評伝の影響も考えられる。この評伝は、佐多稲子が昭和の庶民の生活を的確に描写していることが伝わる、出題意欲をそそるような本であった。もう一つ現今の時勢を反映しているように思えたのが、香川大の武田泰淳『怪人物——行方不明はどこへ行った！——』である。信頼に誠実に応えようとした青年が、その親切心があだとなり、同じアパートの住人の噂によってどんどん追い込まれていく小説である。噂が事実から離れて独り歩きし、エスカレートして人を追い込んでいく。現今のSNSなどで誹謗中傷が人をさいなむ風潮を予見しているような作品である。**20**広島大の古谷田奈月『風下の朱<sup>あか</sup>』は、大学に入学したソフトボール経験者の主人公が野球に誘われ、ノックを受けるうちにソフトボールではない野球の身体感覚を獲得していく話であった。相変わらず広島大らしい丁寧な読解を求める出題であった。出題部分は小説の冒頭であり、小説自体はこの後思いもかけない展開をしていく。**18**東北大の木内昇『剛心』は、明治初期の建築家を取り上げた小説。木内らしい江戸と明治の間に生きる誠実な人間像を描いている。

### 論理的文章

本年度の入試は、文章のテーマが多岐に渡り、その中でも従来から入試でよく出題されるテーマに関するものが目立った。まず、物事の持つ二面性や両義性、また複数のものの関係性や連動性について書かれているものが多かった。**17**東京大では自分自身の身体感覚と鏡に映った自己の姿との関係性についての文章が出題された。また**5**一橋大は日記の持つ両義性、すなわち外部規範の内面化と自己感情の吐露という問題について、詳しく述べる文章であった。**10**北海道大では「合理性」の真の意味を問う文章が、科学的合理性批判の観点から書かれていた。**12**東北大ではAの持つ危険性と有効性について語る文章、**13**名古屋大では外的な空虚と内的な空虚の関係性・連動性について語る文章が出題された。さらに**8**新潟大では、芸術における「ホンモノ」と「セモノ」の複雑な関係性が説明されていた。現代社会はさまざまな面で複雑化し、その対応策を考えるにあたっては、逆にシンプルな「白か黒か」という単純な論理が幅をきかせがちであるが、学問の府である大学では、やはり物事を多面的・総合的に見て、じっくりと考える学生を求めていることが、本年度の出題傾向からも明らかにわかる。ほかに、人間の本質的な問題に迫るテーマも多かった。**16**京都大では、人間は自然との関係のなかで精神の安定を得ることができると論じた文章、**14**神戸大では、人間は死を不可避の現実として受容し、かけがえない生を全うすべきであると述べた文章、**15**大阪大文学部では、アーカイブ型アートは権力による歴史認識では語り得ない、負の記憶の痕跡を指し示す可能性を持つと語った文章、**9**大阪公立大では、正義は相対的であるにもかかわらず、人間は正義を信じて戦争に至ってしまう現実について論じた文章が出題された。また、語ることや聴くこと、日本語など、言葉に関するものも出題が目立った。**11**広島大では、人は言葉で語り、語られたものを読むことによって、自己や他者、世界を理解して人生を生きていると述べた文章、**7**九州大では、他者の話を本心に聴くとはどういうことかについて論じた文章、**1**岡山大では、ひらがな、カタカナ、漢字という三種の文字を持つ日本語の特徴とその魅力を述べた文章が出題された。現代文の学習においては、日頃から、さまざまなテーマの文章を丁寧に読み、内容を理解したうえで、論理的に説明できるようにしておくことが大切である。